

## 6. むすび

日本の梅雨期の四つの天候分布型に対して、5月に太平洋高気圧が著しく弱い年には「全国低温型」の顕著な梅雨が対応している。また太平洋高気圧が強くと北に張り出す年には「全国高温型」の弱い梅雨（時にはからツユ）と「北暖西冷型」の梅雨現象が起こる。さらに極うずと太平洋高気圧が同時に極端に発達した年には「北冷西暑型」の特徴ある天候が対応している。予報者の間ではよく「オホーツク海高気圧がなくとも梅雨現象は起こる」といわれているが、その梅雨現象はからツユも含めて、後者の三つの型が考えられる。5月に太平洋高気圧が北偏して強かった1960年代は太平洋の低緯度でも多雨帯が北上していたと思われる。この熱帯地方の降雨現象の気候形成が解明され、北太平洋高気圧の性状がわかれば、日本の梅雨の長期予報に有力な目やすを与えるに違いない。

この論文をまとめるに当っては、長期予報管理官の和田英夫博士、予報官の朝倉正博士に多くの示唆を頂いた。また討議と批判を頂いた長期予報管理官室の諸氏にもあわせてお礼を申し上げる。なおここに載せた図は七俵玲子さんに製図していただいた。厚く感謝する。

## 引用文献

- 1) 朝倉 正・久保木光熙 (1969): 暖候期予報法の検討, 研究時報, **21**, 702~744.
- 2) Bjerkness, J. (1966): A possible response of atmospheric Hadley circulation to equatorial anomalies of ocean temperature. *Tellus*, **18**, 820~829.
- 3) 檜山国雄 (1953): 梅雨の長期予報 (第1報), 研究時報, **4**, 420~423.
- 4) 気象庁長期予報管理官・気象研究所予報研究部 (1962): 500mb 平均天気図と気象要素との関係 気象庁技術報告, 第15号, 87~280.
- 5) Namias, J. (1969): Seasonal interactions between the North Pacific Ocean and the atmosphere during the 1960's. *Mon. Weath. Rev.*, **97**, 173~192.
- 6) 根本順吉・久保木光熙 (1968): 暖候期予報法の検討, 研究時報, **20**, 248~292.
- 7) 根本・倉嶋・吉野・沼田 (1959): 季節風, 地人書館, p. 31.
- 8) Suda, K. and T. Asakura (1955): A study on the unusual "Baiu" season in 1954 by mean of Northern Hemisphere upper air mean charts. *J. Met. Soc. Japan*, 2nd Ser., **33**, 233~244.
- 9) 須田 建 (1956): 1955年7月の異常高温について, 研究時報, **8**, 463~472.
- 10) 高橋浩一郎 (1956): 季節予報について. 気象研究ノート, **7**, 247~276.
- 11) 竹永一雄 (1960): 相関分布図による天候予想について——梅雨の天候型と広域相関図——. 研究時報, **12**, 343~349.
- 12) Wada, H. (1962): A study on the Behavior of the polar vortex and its application to long range Weather forecasting. *Geo. Mag.*, **31**, 411~455.
- 13) 和田英夫 (1969): 長期予報新講, 地人書館, 163~172.
- 14) 和田英夫・朝倉 正 (1967): 暖候期予報法の検討, 研究時報, **19**, 124~159.

## ▽正誤表▽

Vol. 18 No. 2 の表紙のうち

新語解説 TOPCAT (片山 昭), CISK (神子敏明) は TOPCAT (神子敏朗), CISK (片山 昭) の誤り。

p 74 右側 29行目 3000ft.~4000ft は 30,000ft.~40,000ft の誤りにつき訂正します。

p 68 「気象学会および関連学会行事予定」の春季大会開催年月日 5月24日~29日は5月24日~27日に訂正します。